

2009年8月23日 パイロット地区候補地を視察

プロジェクトでは地域コミュニティにおける水再利用の効果的管理とモニタリングシステム構築パイロット地区を選定するため、山本リーダーをはじめとする専門家がいくつかの候補地を調査しました。今後タイ国カウンターパートとの協議を経て決定します。



(写真) バンコク近郊工業団地の汚水処理施設を視察する左から山本専門家
(リーダー)、本多専門家(副リーダー)、渡部専門家、古米専門家

2009年10月20日 ERTCでバクテリアの培養についての研修を実施

プロジェクトでは地域コミュニティにおける水再利用のための効率的な管理とモニタリングシステムの構築のため、人の健康や生態系へのリスク評価を実施していきます。

今回プロジェクトでは、日本人専門家によりバクテリアの培養について ERTC スタッフに対する研修を行いました。



(写真) 渡部専門家（中央）によるバクテリア培養技術指導

2009年10月29日 東南アジア水環境シンポジウムに参加

プロジェクトはバンコクで開催された第7回東南アジア水環境シンポジウムにおいて、水再利用技術に関する特別セッションを並行開催しました。タイは近隣諸国を含めこの分野における開発と訓練のCOE的な立場になることを目指しています。

特別セッションには80人を超える参加者があり、水再利用技術に対する関心の高さが伺われました。プロジェクトは熱帯地域に適した新たな水の再利用技術の研究開発をタイと日本の高等教育・研究機関によって共同で実施してその適用可能性を検証していきます。またタイ側主要実施機関における水再利用技術分野での研究・開発・普及促進に係る能力向上を図ることで、タイ国、及び将来的には東南アジアを中心とする熱帯地域諸国への適用を図ろうとしています。



(写真) 水再利用技術の特別セッションで発表する古米専門家 (左)

2010年1月27日 チャオプラヤ川サンプリングを実施

プロジェクトでは、地域コミュニティにおける水再利用のための効率的な管理とモニタリングシステムを構築するために水質情報プラットフォーム開発を行います。タイでは主要河川であるチャオプラヤ川の水質汚染が問題となっていますが、その詳細な内容は今まで調査されていませんでした。



(写真) チャオプラヤ川の水質サンプリング



(写真) チャオプラヤ川から採取した水から残留医薬品を検出するための処理を ERTC のカウンターパートに指導する渡部専門家(中央後方)

2010年1月30日 山本専門家（リーダー）カセサート大学のサイトを指導
プロジェクトではノンタブリ県の一般廃棄物埋立処分場に実験サイトを確保し、ベンチスケール実験装置を構成し、周囲の農地の再利用可能な水を生産するベンチスケール実験により、運転条件の最適化と水質評価を行っています。



（写真）埋立処分場内に設置された汚水処理バイオリアクター実験施設の動作状況について確認する山本専門家（リーダー）（左）とカセサート大学のチャート准教授（右）

2010年2月22日 ERTCで研究能力強化のための研究会（レクチャーシリーズ）開始
ERTCは1991年に日本の無償資金協力による建物建設によって創設された機関で、設立以前からJICAによる継続的な技術協力を得ながら機能拡大と能力向上を果たしてきました。ERTCは水質分析に係る一定の分析能力を有していますが、水再利用技術の研究開発に係る能力と経験はいまだ十分ではありません。しかしERTCはそのビジョンにおいて「環境に係る研究・開発・実験標準・研修におけるセンター・オブ・エクセレンス(COE)を目指す」としており水再利用分野でもその研究開発能力を強化することが課題とされています。そこでプロジェクトでは、毎月1回日本人専門家によるレクチャーシリーズを計画し、最新技術と研究指導を行うことにしました。

2月22日、第1回が開催され、MBRについて山本リーダーが講演しました。

このレクチャーシリーズはその後毎月1回のペースで継続され、ERTC以外からも参加者が来ています。



(写真) 講演する山本リーダーと ERTC 建物外観

2010年3月22日 合同調整会議を開催

プロジェクトではプロジェクト活動、成果モニタリングおよび次年度の計画について協議する合同調整委員会(JCC)を1年に1回実施しています。2010年3月22日、自然資源環境省(MNRE)環境質向上局(DEQP)会議室において JICA タイ事務所の田中次長などプロジェクトの重要な関係者が出席して第1回 JCC が開催されました。会議では各成果ごとの進捗が報告されたほか、地域コミュニティにおける水再利用のためのパイロット地区が決定されました。プロジェクト活動は順調に進捗しており、人材育成の一環としてタイカウンターパート1人を長期研修員として日本の大学に派遣する計画も承認されました。合同調整委員会には本プロジェクトの技術的成果ができるだけ広範囲に適用されるとともに制度的インパクトが将来的に発現するように直接の実施機関以外からも参加者を得て構成しています。



(写真) JCC の模様 (左側が JICA タイ事務所田中次長)